



2020
カリキュラム
授業作品展

7/23(木・祝)
- 8/23(日)

10:00 - 18:00 **入館無料**

会場 **MOU 尾道市立大学美術館**

休館日 **水・木曜日 (祝日閉館)**



2020
カリキュラム
授業作品展

7/23(木・祝) - 8/23(日)

10:00 - 18:00

会場 MOU 尾道市立大学美術館

休館日 水・木曜日(祝日開館)

CURRICULUM

今年度も、MOU 尾道市立大学美術館では「Curriculum カリキュラム」を開催します。本展覧会は、その名のとおり、尾道市立大学美術学科の教育課程(カリキュラム)の中で制作された作品を通じて、日本画・油画・デザインの各コースでの取り組みをご紹介します。

尾道市立大学美術学科は、2001年の設立以来、専門的な実技教育を通じ、画家やデザイナー、あるいは美術教員や学芸員として、持続的な造形活動にたずさわる人の育成をめざし、教育研究活動を行ってきました。芸術分野での華々しい活躍は、しばしばメディアを通して作家個人の突出した意欲や才能を強調する形で語られます。しかし、制作上の試行錯誤の蓄積や、仲間との切磋琢磨、先達との議論など、大学の提供する「場」は、若い作家やデザイナーである学生が、造形の力と表現する喜びを自らの血肉としていく過程で、計り知れない意味を持つと考えます。

1年の間は、基礎的な実習と3コースそれぞれの課題を全員

が体験することで、自らの方向性を見定めます。2年次からは、各コースに所属して実習に励むとともに、金工・木工・写真・塗装等の演習科目で多様な表現を学び、4年次には卒業制作に取り組みます。その後、毎年一定数の学生が大学院美術研究科に進学し、専門的な制作に打ち込むことになります。

しかし、本年度は新型コロナウイルスの影響による異例の事態で、前期は実技系授業も全て遠隔で実施しています。学生は大学のアトリエを使うことができず、現実の「場」を共有した制作は出来ていません。限定された条件下で、教員はどのような授業の組み立てをすれば良いか、どうコミュニケーションを取るのかを考え、学生たちはそれぞれ試行錯誤しながら課題と向き合い制作を行ってきました。今回、それらの試みの一端も紹介します。コロナ禍における実習の試みを紹介することで、美術教育の新たな可能性についても考察する機会としたいと思っています。みなさまのご来館をお待ちしています。



本学美術学科4年(日本画)伊東純奈/3年次 自由制作 F30号(91x72.7cm)



本学美術学科3年(油画)前田真/2年次 人物制作 F30号(72.7x91cm)

【MOU 尾道市立大学美術館まで】

徒歩 > 尾道駅から東へ約25分

自動車 > 国道2号の防地口交差点から尾道本通りに入り約200m、駐本場は館の南側

バス > 尾道駅1番バス乗り場から東尾道方面行き「浄土寺下」下車、西へ徒歩約1分



左から本学美術学科(デザイン)八木梨紗、水野加奈子、畑睦美
/2年次グラフィック&アドバタイジング領域パッケージデザイン制作課題

